

地域 担い手 サボ・センだより

J Aグループ山形

県南の穀倉地帯、川西町は桜が満開だった。「今月初めの雨で田起こしは遅れ気味。でも気をもむと事故につながる。余裕を持って作業を」

上小松の農事組合法人・萩野生産組合。1984年の設立当初から関わり、4月から地域・担い手サポーターとなったJA山形おきたまOBの酒井茂さん(59)が、組合長の高橋章さん(71)らに呼び掛ける。春耕はこれから本番だ。県とJAグループ山形は、10日から農作業事故防

農作業の安全呼び掛け 川西

止啓発運動を展開している。6月10日までは、農機の転倒・転落防止に重点を置く春の農作業事故防止強化期間。JA共済連山形提供の山形放送ラジオ「おはよう！セーフティードライブ」で、野良からも注意喚起する。

後を絶たないのが、トラクターや田植え機など農耕車による公道での交通事故。過去5年間で21件発生し、1人が死亡している。一般車との出会い頭の衝突が多い。県警察は①車体は後続車から見えるように常にきれ

いにし、反射材を付ける②交差点ではしっかり止まって安全確認を——と訴える。疲れが出始める午前11時ごろから正午まで、午後は4時から6時ごろまでが危険時間帯だ。逸脱や坂道駐車、バランスを崩しての転落・横転にも注意が必要となる。

県地域営農法人協議会に加盟する萩野生産組合の組合員は4人。89年にできたライスセンターの利用者は10人。「はえぬき」を中心に受託を含め、約30畝を耕作する。高齢化や担い手などの課

公道での事故に注意



作業の安全を確認し合う高橋組合長と酒井さん

題とも向き合う高橋組合長も安全第一で」と気を引きさらは「地域のためにも今年 締めた。